



園芸作物栽培についての

これからの対策

Q & A

寒気の蛇行は収まっており、天候の変動は激しいのではないかと見られます。したがって今年の畑作スタートは急がずサクラの開花予想を見ながら季節の動きに沿って作業を進めてください。

◎当面の作業

○圃場の準備

今年積雪が非常に多いため融雪促進も考えましょう。通常2月下旬に入ってくる降雪も少なくなってきましたので、天候を見て融雪促進剤を散布します。何もしないより、10日は早く圃場の準備に取りかれます。ただ、融雪剤を多用して無理に早くする必要はありません。地面が見え始めたら圃場表面排水促進に努めましょう。越冬野菜のほとんどは土壌水分が多い状況を嫌いますのでこの作業が大切です。圃場の耕起も急がず土壌表面の水分が抜けるタイミングを見計らって行いましょう。菜園での春夏野菜の植え付けは4

◎春先の気象と農作業

例年なら2月に入ると梅の開花情報もたらされる時期ですが、本年は近年にない大雪でそれどころではなくなっています。この大雪をもたらしたラニーニャ現象は春に向かつて終息しつつありますが、その影響はしばらく残るとして気象庁は長期予報でこの先も日照量は少なめ、気温は低く、降水量はやや多めとしています。また、北極振動による

融雪剤について

今年の積雪は多いので融雪促進も考えましょう。融雪剤を散布すると消雪は7~10日ほど早まります。融雪促進用の商品も出回っていますが、要は黒っぽい資材を散布すれば良いのでくん炭、堆肥、腐葉土、灰などで代用できます。土壌改良も兼ねて転炉さいの「ミネカル」の粉状品が良いと思います。1a当たり6kg程度散布します。防散石灰窒素も良いのですが散布量はa当たり2~3kgまでとします。また粒状の石灰質肥料も使えますが粒が雪の中に潜りやすいので効率はあまり良くありません。融雪剤散布後20cm以上積雪があった場合は撒き直します。尚、野菜がある圃場では汚れが残ることになるので散布に際しては考慮してください。



月末からとなりますので、圃場の準備は3月から始まります。堆肥を施用する場合は3月中旬頃を目安として施用し荒起しをしておきましょう。圃場の利用に当たっては連作とならないよう、作付け計画を作っておきましょう。

◎越冬野菜の管理

積雪が多く長期間にわたっていますのでタマネギなど越冬野菜は体力を消耗しています。積雪下の暗黒状態が70日以上になると生き残る個体は少なくなるかとされています。3月10日で根雪期間は約60日間となりますので、このあたりを目安に管理します。

越冬後の殺菌剤
ジマンダイセン水和剤
Zボルドー
オーソサイド水和剤
ダコニール1000など



降雨前に「そさい3号」が「野菜の達人」をマルチ上に振っておきます。

雪が無くなったならそさい3号など速効性の肥料を1a当たり2~3kg施用し中耕しましょう。マルチ栽培の場合はマルチ上にバラ撒きしておきましょう。ソラマメは凍害に弱いので土寄せをして株元の保護を図ると共に降霜予報の日はバオパオなどで覆ってやりましょう。イチゴは古葉を掻き取ることで病害虫の発生を少なくすることが出来ます。また、晴天日を選んで殺菌剤を散布しておきましょう。

◎ジャガイモ栽培

例年なら3月中旬にはジャガイモの植付けが始まりますが今年は遅くなりそうです。できるだけ早く収穫したい場合は浴光催芽してから植え付けましょう。詳細は再三記載していますので今月はポイントのみ整理します。



条間は広めにして、畝はしっかり上げましょう。

○栽培のポイント

- 自家の手を使い続ける品質・収量が落ちて
- とき終わつたら霧吹きで覆土が落ち着くくらいの水をやって温度計を置き、乾燥防止に袋をかけて室内の暖かな所に置きます。
- 発熱体を利用する場合は箱の下に置き、濡れないようにビニールなどで覆います。万がいの無いよう置き場所は充分注意してください。
- 発芽までは温度計をチェックし、20~35℃の間をできるだけ保つようにつします。
- 発芽が始まつたら厚間はできるだけ光を当てます。水は培土の表面が乾いたときだけ少量与えます。
- 本葉が見え始めたら元気の良い苗から育苗ポットに鉢上げし、水と光はこれまで通り、温度は20~30℃を目安に管理します。ナス科野菜で70~80日、ウリ科野菜で40~50日で定植できる苗になります。



市販の育苗機



ポットに直播したナス

◎果樹の雪害対策

低樹高の果樹は垂主枝など比較的太い枝まで折れている場合があります。その他の樹でも枝折れが多発しています。今後、雪の沈降が進みこれからの被害が拡大します。対策として現在枝先が雪中にある場合は枝先を掘り出しておきます。折れてしまった枝は折れた部分から枝の付け根の位置で鋏で切り落とします。切り口には腐り込み防止対策としてトップジンMペーストかバッチシート有機銅塗布剤を塗っておきましょう。なお、山間部では飢えたウサギやシカなどが幹や枝先を食害する被害も出やすくなります。



果樹の折損

注意！沈降圧によるハウスの変形

雪害による園芸ハウスの倒壊が相次ぎましたが今後はビニールの張って無い水稲ハウスの変形が懸念されます。これから雪が締まって沈降する際に雪に埋もれた横通しパイプが引張られハウスが歪められやすくなります。スコップを挿して雪を割っておきましょう。



◎自家育苗の奨め

野菜苗も年々高くなってきていますので、今年も自家育苗の育苗に挑戦してみてください。ポイントは温度の確保と光線管理です。

○育苗管理のポイント

- ・培土は信頼のできるものを購入します。
- ・底に穴をあけた発泡スチロール（発芽用）と育苗ポット（鉢上げ育苗用）を用意します。
- ・温度計と乳白色の袋（レジ袋など）を準備します。
- ・播種はサクラの開花始めからですが、それより早く時く場合は電気ファンなど発熱体を利用します。
- ・箱に5cm程度培土を入れ、4~5cm間隔に浅い溝を作り、2cm程度の間隔で条時きし軽く覆土します。

大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499